

新しい東北

コンパクトな地域づくりを目指した地区防災計画立案技術の開発

岩手県大槌町をモデルとした地区防災計画策定手法の実践

京都大学
(株)岩崎敬環境計画事務所
新潟大学
(株)博報堂

1 地区防災計画策定の背景とコンセプト

1-1 背景：災害対策基本法の一部改正(平成25年6月1日)

→平素からの防災への取り組み強化

「住民の責務に生活必需品の備蓄等を明記するとともに、

市町村の居住者から地区防災計画を提案できることとする。」

1-2 コンセプト：地区防災計画とは

1-2-1 様々な地区独自のリスクを認知し、それに立ち向かう持続計画である

1-2-2 地区住民の意思と、周辺地区,専門家,関連行政との調整を行い情報を共有するもの

1-2-3 継続的であり常に更新していくもの、そしてその体制をつくること

2 地区防災計画策定のポイント

2-1 事業継続マネジメント（BCM）の視点から地区防災計画を策定する。

2-1-1 誰にでも作成しやすい計画策定メソッドの導入

2-1-2 PDCAサイクル(plan-do-check-act)による継続的改善・更新

2-1-3 リスク解析やインパクト解析手法による実感・認知の促進
→インパクトの自覚から住民の自発的態度が生まれる

2-1-4 ISOやJISに依拠した標準化を図ることによる横展開

3 モデル地区 “大槌町花輪田地区” ～選定の理由と意義

3-1 自立的に立ち上がってきた地区

3-2 3.11では比較的被害が少なく、それゆえ復興から取り残されている

3-3 町方地区の盛土整備の結果、町内居住居地でも最も標高レベルが低い

3-4 近年のゲリラ豪雨と、背景の山、小槌川など内水のリスクを抱えている

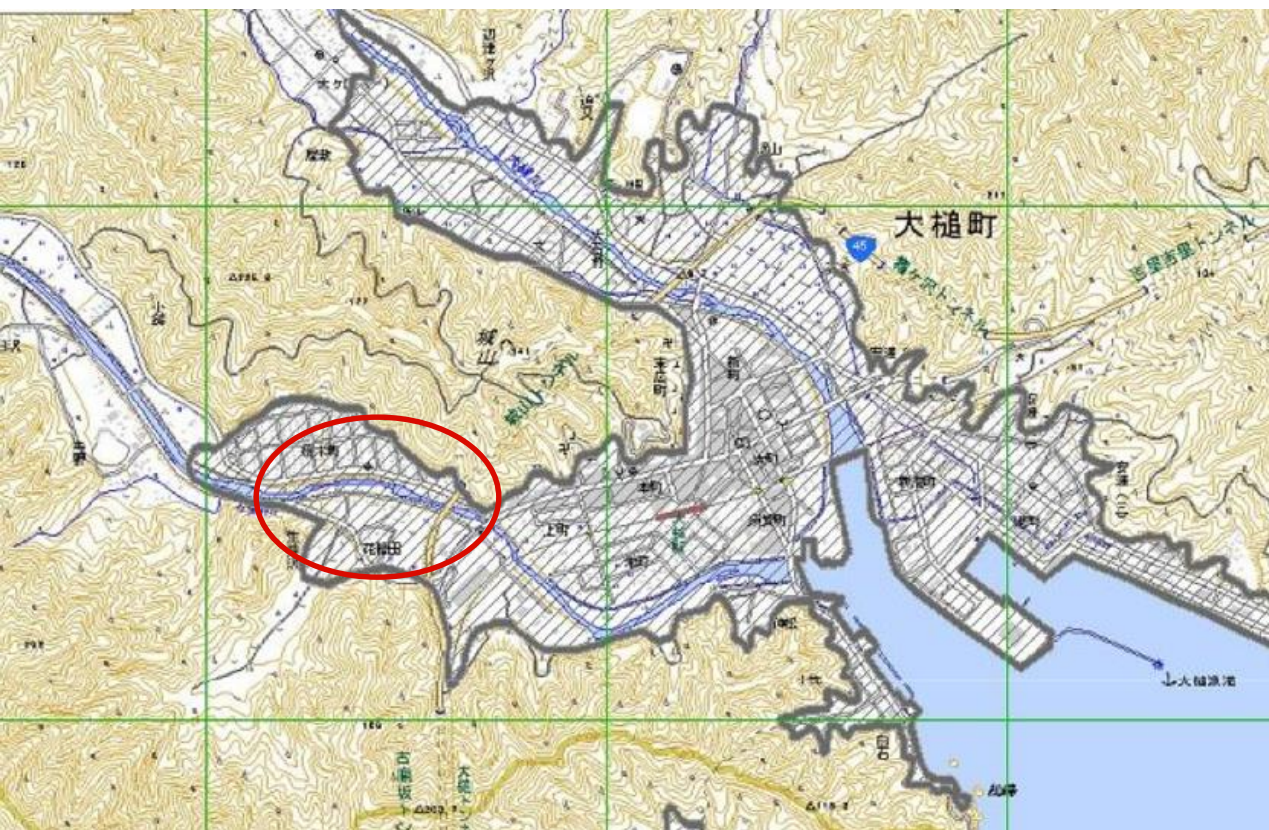
3-5 結果、地区内に滞留した水は速やかに排水されない

3-6 高齢化が進む中、基本的な安全・安心環境の充実が必要

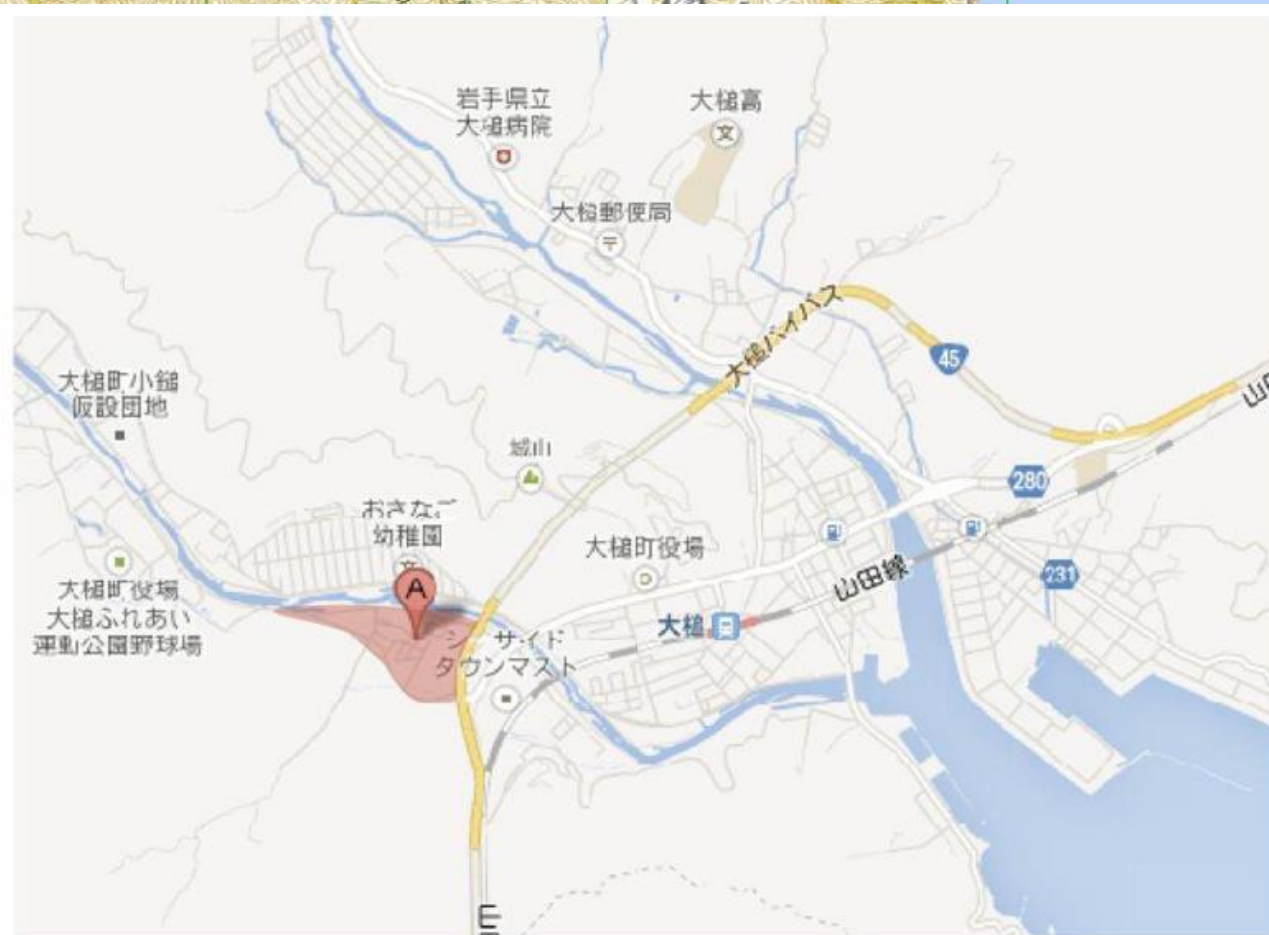
3-7 河川流域、背後の尾根という地形から、周辺との関係整備が大事である

(小槌川対岸の桜木町地区など隣接地区のみならず、

小槌川上流地区との連携や関連行政や組織・団体)



浸水域ではあるが、浸水深は3m程度
河川と山に挟まれている
内水被害の恐れと、孤立化しやすい



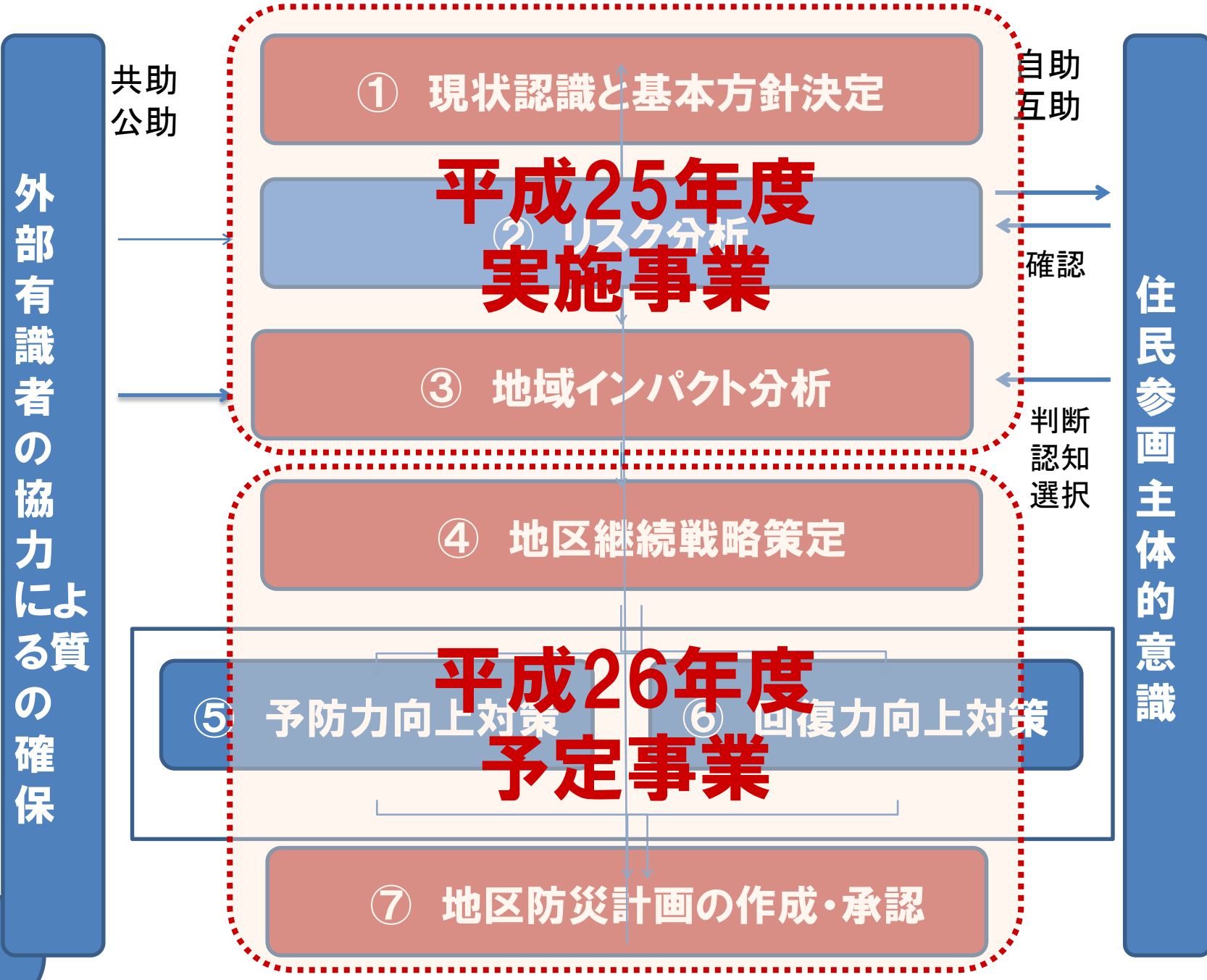
4 地区防災計画策定の作業ステップおよびステイクホルダーの役割

情報・知識系

- 2014/02までの参加者
- 京都大学防災研究所
 - 林春男教授
 - 鈴木進吾助教
 - 岩崎敬環境計画事務所
 - 岩崎 敬
 - 糟谷英一郎
 - 東京大学
 - 岸田省吾名誉教授
 - 新潟大学
 - 井ノ口宗成助教
- 2014/03 予定者
- 岩手医科大学
 - 秋富慎司
 - 構造計画研究所
 - 西尾啓一
 - 秋田県立大学
 - 渡辺千明准教授

ワークショップ

体験・現場系



- 大槌町花輪田地区
- 三浦自治会長
 - 中村自治会副会長
 - ほか住民の方々

大きなイベント
(環境変化)